

水稻奨励（認定）品種「いなほっこり（仮称）」の 基肥・追肥体系における施肥基準

研究のねらい

高温登熟性に優れる水稻「いなほっこり」の一般栽培が平成31年より県内平坦地で始まります。高品質安定栽培するために、基肥・追肥体系における施肥基準を検討しました。

技術の特徴

1 基肥窒素量を増量しても収量は増加せず、逆に倒伏が増加し、外観品質が低下します（図1）。

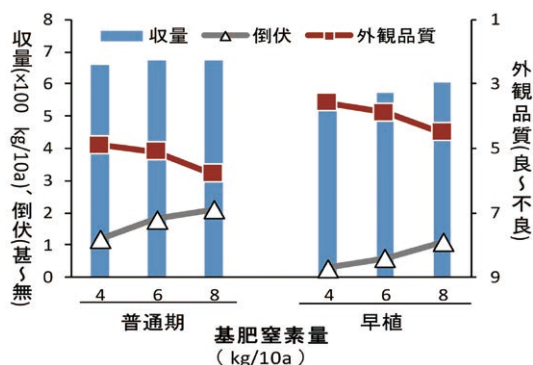


図1 基肥窒素量と倒伏、外観品質

2 無追肥では、低収量となります（図2）。追肥窒素量を増量すると収量は増加します。しかし、追肥窒素量を4kg/10aとすると倒伏が助長し、食味評価も低下します（図2）。

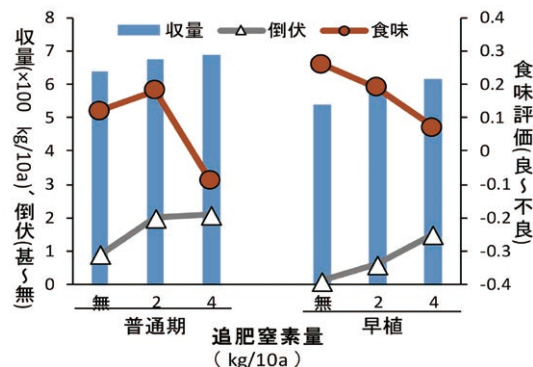


図2 追肥窒素量と収量、食味評価

3 以上のことから、「いなほっこり」の基肥窒素量は4kg/10a、追肥窒素量は2kg/10aを基本とします。

4 栽培上の留意点

- (1) 県内主力品種である「あさひの夢」等の施肥基準は、基肥窒素量が6～7kg/10aですが、「いなほっこり」の基肥窒素量は、4kg/10aとなるため注意が必要です。また、地力の高い圃場では、さらに減量して下さい。
- (2) 「いなほっこり」の追肥の実施時期は、主稈の幼穂長1～2cmを目安として下さい。
- (3) 「いなほっこり」の品種特性として、中干し時期の草姿は、葉が細いため生育不足に見えますが、追肥の時期を早めたり、追肥量の増量はしないで下さい（写真）。

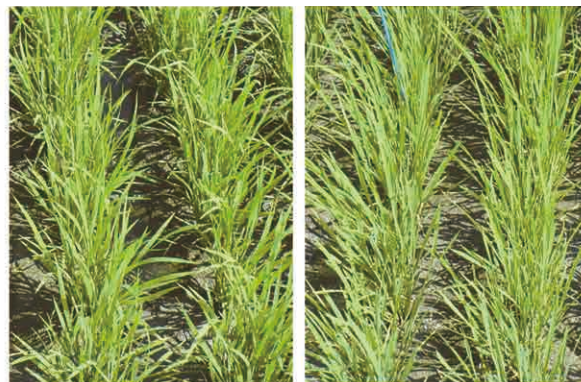


写真 移植後40日頃の草姿

今後の取り組み

「いなほっこり」に適した収穫指標を明らかにしていきます。

（執筆者：小川 三菜美）